神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

ディケンズとユーレイニア慈善

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2022-06-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: Konishi, Chizuru
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2630

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者氏名 小西 千鶴

(要旨の本文)

本論文は、イギリス 19 世紀の作家チャールズ・ディケンズが個人的に携わった慈 善事業である売春婦たちの更生施設ユーレイニア・コテッジと、同時期に執筆・連載 していた作品との関係を考察するものである。ディケンズ作品におけるユーレイニア 慈善の影響は、施設の入居者たちと作品中に登場する女性人物像たちとの比較や対照 をとおして既に論じられている。しかし、ユーレイニアの発案者で資金の提供者であ った資産家アンジェラ・バーデットークーツとの間において生じていた運営方法をめ ぐる対立や協調が作品に与えた影響について詳しく論じられた例はない。クーツとい う女性は、当時のイギリス社会において、その家柄と財力から突出した稀有な存在で あった。ディケンズはジャーナリストとしての経験を有し、社会の不条理をその作品 に取り上げる作家として名声を築いていた。二人の経歴からも慈善に必要な社会問題 における見識を備えていたのはディケンズである。しかしながら、ユーレイニアの運 営においては、ディケンズは主宰者であるクーツの下という微妙な立場に置かれ、作 家の責務にはスタッフとの連携だけではなく、クーツへの報告や交渉も含まれていた のである。このような大きな財力を手にする女性と売春婦たちの更生に向けて協同す るといった個人的な体験は、作家の創作活動にも大きな影響を及ぼしていたはずであ る。本論文では、作家がユーレイニア慈善へ注いだその努力と労力を作品のなかに読 み解きながら、それぞれの作品の意義を考察し、最後にユーレイニアの慈善活動が作 家の創作活動にもたらした意外な因果関係を示したい。